



赤十字救急法講習内容一覧



		コース	形式	時間	内容
救急法基礎講習内容	1	手当の基本	講義・実技	30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の基本 ・体位の基本 ・傷病者への接し方 ・協力者の要請・連絡・通報 
	2	一次救命処置 	講義・実技	90分～180分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生 ・AEDを用いた除細動 ・気道異物除去 
救急法救急員養成講習	3	急病	講義	30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓発作 ・脳卒中 ・気管支喘息などの呼吸困難 ・低血糖 ・熱中症 ・中毒（食中毒、ガス中毒、薬物中毒、急性アルコール中毒） ・アナフィラキシー ・急性腹症 ・痙攣 ・失神 
	4	けが 	講義	30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・きず ・骨折 ・各部のけが（頭、頸、胸、腹、手、目、歯など） ・特殊なけが（熱傷、化学薬品、感電、落雷、低温、咬創、毒虫など）
	5	止血法 	講義・実技	60分～120分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・出血に関連する解剖、生理 ・止血のしくみ ・直接圧迫止血法 ・止血帯止血法 
	6	きずの手当	講義・実技	60分～120分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・きずの手当 ・包帯
	7	骨折の手当 	講義・実技	60分～120分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・固定 ・各部の骨折の手当（手首、前腕、上腕、肘、下腿、大腿、膝、鎖骨、足首など） ・捻挫の手当 
	8	搬送 	講義・実技	60分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・搬送方法 （担架・応用担架・6～8人で運ぶ方法・3人で運ぶ方法・2人で運ぶ方法・1人で運ぶ方法）
	9	救護	講義	30分程度	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の心得 ・災害への備え

※この内容での短期講習開催をご希望の場合は、防災セミナーとして承ります。

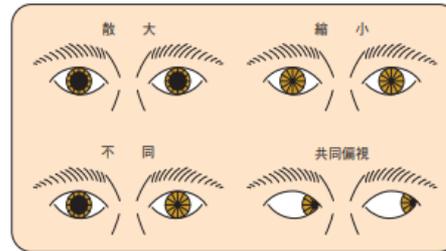
各コースの時間は目安です。ご希望に合わせて時間と内容は相談に応じます。

1 手当の基本

傷病者の手当を行うには、現場と傷病者のくわしい状況を観察する必要があります。観察の結果、傷病者がどのような状況で、どのような手当が必要かを判断したうえで、傷病者の対応をどのように実行するかを考えて行動しなければなりません。

- (生命の徴候)**
- ・意識はある？
 - ・呼吸をしている？
 - ・脈はある？
 - ・顔色や皮膚は？
 - ・手足を動かせる？

目の状態を調べる



呼吸の状態を調べる



**身体的にも精神的にも
安静にすることが大切！**

脈拍の状態を調べる



保温の仕方

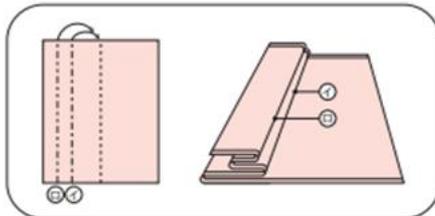


図2-25



図2-26



図2-27

2-① 一次救命処置（心肺蘇生とAED）

傷病者を救命するために行う緊急処置のことで、傷病者の社会復帰において大きな役割を果たします。

反応(意識)の確認



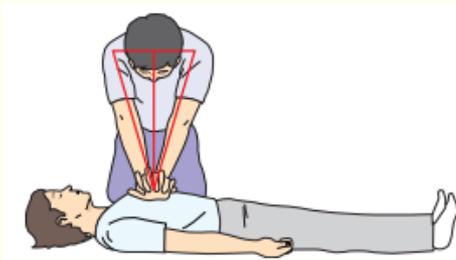
119番通報
と
AEDの手配



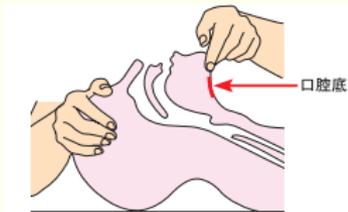
呼吸の確認



胸骨圧迫



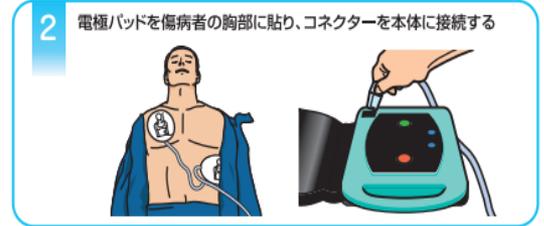
気道確保（頭部後屈顎先挙上法）



人工呼吸



～AEDの使い方～



2-② 一次救命処置（気道異物除去）

のどに異物が詰まると、話しかけても返答ができなかったり、のどを掴むような仕草をして、苦しい状態を示そうとします。傷病者が咳をすることが可能であれば、咳が最も効果的です。声が出ないか、十分に強い咳ができない場合は、119番通報をしたうえで以下の手当てを試みます。



① 背中をたたく

立っているか座っている場合

傷病者の頭をできるだけ低くし、胸を一方の手で支え、他方の手で左右肩甲骨の間を続けてたたきます。



寝ている場合

傷病者を横向きにし、胸と上腹部を救助者の大腿部で支え、左右肩甲骨の間を続けてたたきます。



※ 乳幼児への一次救命処置は、幼児安全法で学ぶことができます。

3 急病

急病のなかには、気づくのが遅れたり、正しく手当てをしなかったりすると、命が危険にさらされたり、後遺症が残るものがあります。とくに、心臓の病気や脳の病気では、早く正しく対応することが大切です。

脳卒中

FASTは脳卒中の典型的な症状の頭文字を組み合わせた言葉

- F (Face) : 口角など顔の片側が下がる。ゆがみがある。
- A (Arm) : 片手に力が入らない。だらりと下がる。
- S (Speech) : 言葉が出てこない。ろれつがまわらない。
- T (Time) : 症状が出た時間 (発症時刻)



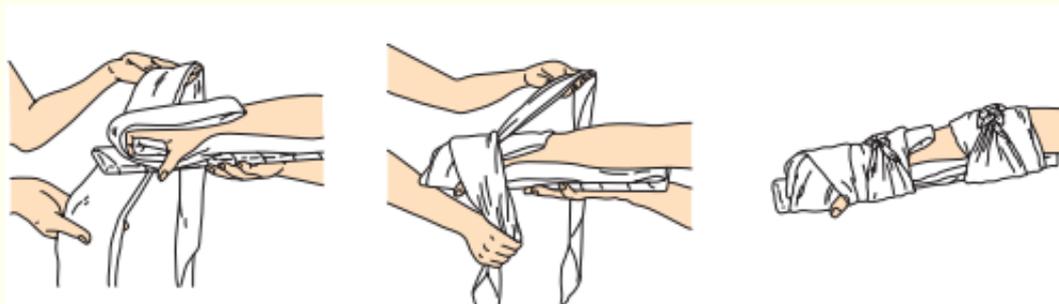
図2-6 脳卒中の代表的な症状

症状に気づいたら、119番通報と応急手当、医療機関への救急搬送と、医師による診療が必要です。

4 けが

日常生活ではけがをすることがよくありますが、けがをしたときに正しい手当をしないと、治療が長引いたり、細菌に感染して重篤な症状に陥ることもあります。特に大きな出血は、すぐに手当をしないと命にかかります。

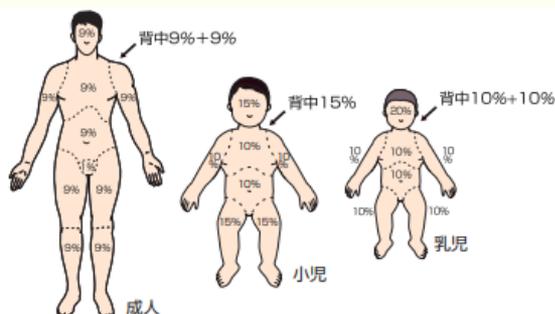
手(指)のけが



- 開放性のきず……切りきず、刺しきず、すりきずなど
- 非開放性のきず…軽度の熱傷、凍傷、打撲傷、捻挫、骨折など



熱傷の程度

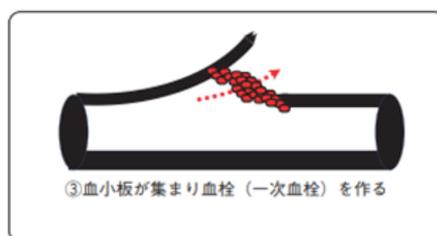
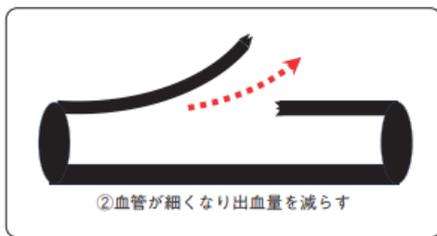
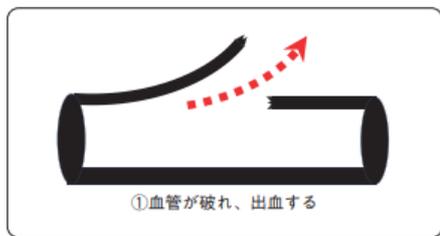


- 1度 皮膚の色が赤くなり、ひりひりする。
- 2度 腫れぼったく赤くなり、水ぶくれになり、痛みが強い。
- 3度 皮膚が黒く焦げていたり、蒼白になり、感覚がなくなる。

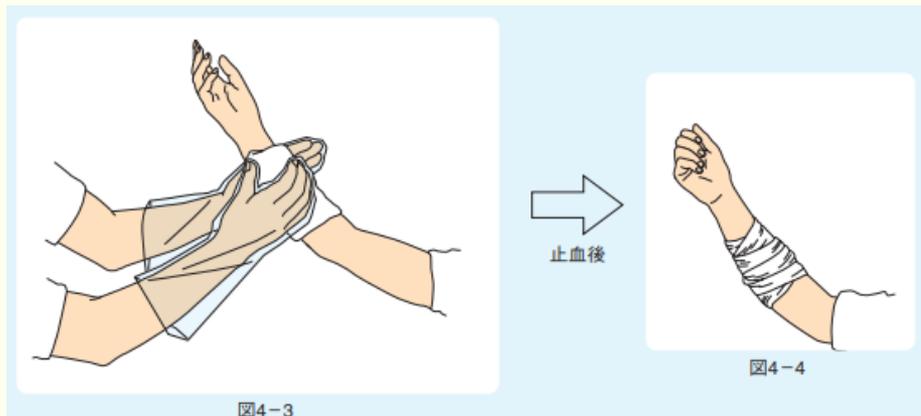
5 止血法

止血の方法には、①直接圧迫止血法、②止血帯止血法があります。直接圧迫止血法は、出血部位にガーゼ、ハンカチ、タオルなどを当て、その上から直接圧迫して止血する基本的な止血法です。

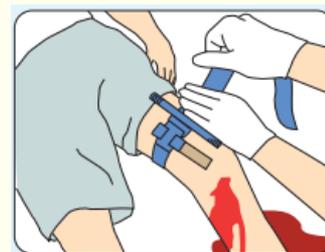
止血の仕組み



直接圧迫止血法



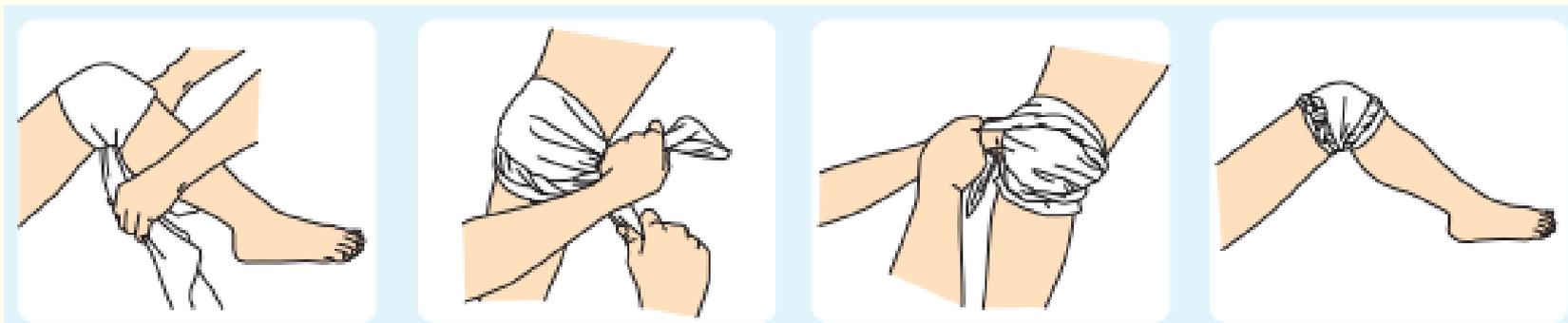
止血帯止血法



6 きずの手当

汚れたきず口をそのままにしておくと、破傷風や化膿などの危険があります。まず水道水などのきれいな水で洗い、深いけがはガーゼと包帯で保護して医師に診てもらいます。出血が多いときは、洗うより止血を優先します。

膝（肘）への包帯



腕の吊り方



7 骨折の手当

骨折は1箇所とは限らないので、全身をよく注意して調べることが必要です。



● 少しでも骨折を疑わせる症状がある時は骨折の手当をし、傷病者に楽な体位をとらせ、全身および骨折部を安静にします。

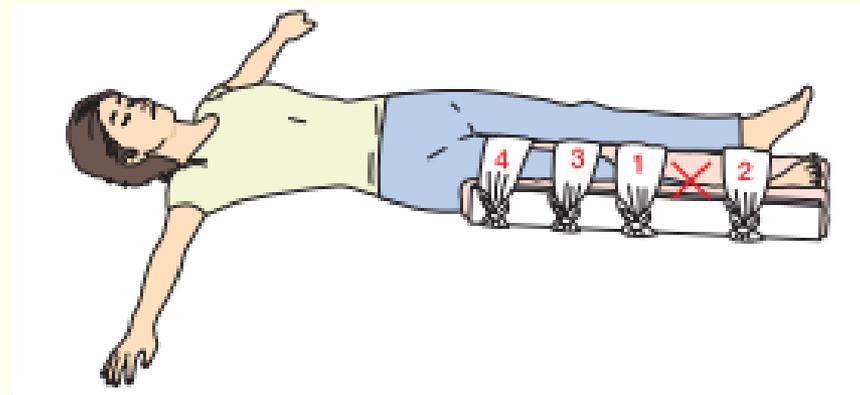
副 子

● 骨折部の動揺を防ぐために、上肢、下肢及び体に当てる支持物のこと。
● 骨折、脱臼部の上下の関節を含めることができる十分な長さ、強さ、幅のあるものを用います。

鎖骨の骨折

手首や前腕の骨の骨折

下腿骨の骨折



8 搬送

傷病者を動かしたり、運んだりすることは、どのような場合にもある程度の危険を伴います。搬送は、現場の状況や傷病者の状態をよく確認し、正しい方法を選ぶ必要があります。

✓ 搬送の準備

- ✎ 傷病者に対する手当は完了したか。
- ✎ 傷病者をどんな体位で運ぶか。
- ✎ 保温は適切か。
- ✎ 担架は安全・適切に作られているか。
- ✎ 人数と役割はよいか。
- ✎ 搬送先と経路は決まったか、それは安全な経路か。

毛布を利用した担架



担架による搬送



2人で運ぶ方法



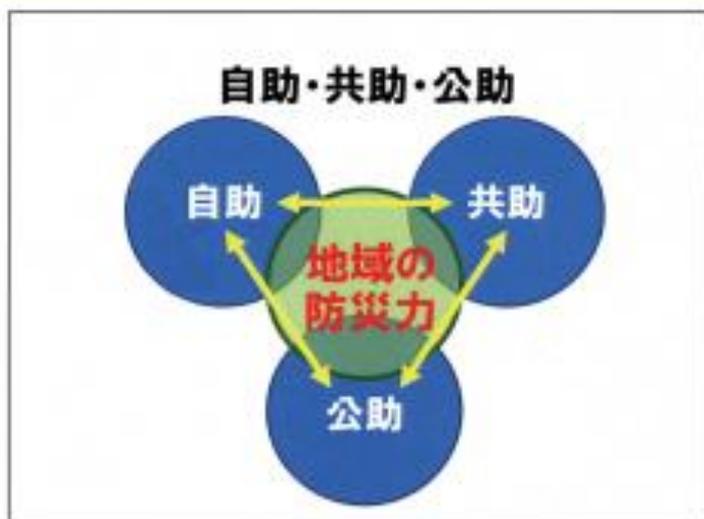
肩をかして歩かせる方法



9 救護

※この内容での短期講習開催をご希望の場合は、防災セミナーとして承ります。

日本では大地震や風水害などの災害が多く発生しており、日頃からの備えが重要です。大規模災害では行政による支援だけでは限界があるため、自分で身を守る自助や、地域で助け合う共助を強化することが被害を減らす「減災」につながります。そのため、災害への備えや、救護活動時の心構えを持つことが大切です。



赤十字防災セミナー

- 対象** 町内会・自治会から小学校区程度までを範囲とし、原則として地域住民の方
- 会場** 地域のコミュニティセンター、公民館、学校体育館など
- 内容** 「日本赤十字社の紹介」「災害への備え」「災害エスノグラフィー」
「災害図上訓練(DIG)」から必要なものを選択・組み合わせることが可能

赤十字防災セミナーの目的

- 1** 日本赤十字社の紹介(10分)
日本赤十字社の現在の活動内容や、災害時の役割、防災への取り組みについて理解する。
- 2** 災害への備え(約60分間)
災害・防災についての考え方や地震・大雨災害など災害別の想定被害等から、平時の備えの重要性を理解する。
- 3** 災害エスノグラフィー(約120分間)
大規模災害の被災者の経験談を通じて、災害を追体験することで被災の具体的なイメージを理解する。
- 4** 災害図上訓練(DIG: Disaster Imagination Game)(約120分間)
地域の防災マップの作成を通じて、防災上の資源や危険箇所等を把握・理解し、個人や地域での防災対策の実施につなげる。

※今後も新規カリキュラムの追加を予定しています。

必要なカリキュラムを選択・組み合わせることで実施

地域住民の
防災・減災に関する
知識・意識・技術の
普及向上

地域における
災害発生時の
応急対応にあたる
リーダー層の育成